

能登半島地震における 石綿飛散防止対策について

NPO法人 中皮腫・じん肺・アスベストセンター
永倉冬史

能登半島地震被災地のアスベスト調査

●5月6日～8日：第1次調査

ひょうご安全センター3名、東京センターリスコミPJ 4名、計7名

●8月16日～18日：第2次調査

ひょうご安全センター3名、東京センターリスコミPJ 4名、計7名

9月21日 能登半島豪雨 死者15名、住家被害1567棟に及ぶ

●12月14日～16日：第3次調査

ひょうご安全センター3名、東京センターリスコミPJ 3名、計6名

- 第1次調査 5月6日～8日

「被災地NGO協働センター」 七尾市中島小牧集会所



支援物資が提供されている。



尿漏れパッドや子供用衣類など必需品



5月7日被災地NGO協働センター増島さんより
被災地の現状をお聞きする。



穴水町役場 駐車場



駐車場裏の山肌が崩落している



穴水港あすなろ広場 がれき仮置き場



輪島市街地の倒壊建物



路面は隆起している



被災地のネコ



2024/05/07 12:54

輪島市の社会福祉協議会を訪問防じん マスク・アスベストの冊子を寄付



倒壊した建物があちこちにみられる





交差点に覆いかぶさるように倒壊したビル







輪島朝市通り





散乱したレベル3建材（スレート屋根材）



建材の裏側に、aマークが確認される



焼け残った建物に吹付け材が見える













壁から剥がれ落ちた、押出成形板







2024/05/07 14:15

七尾市のがれき仮置き場（テニス場）



- 2次調査 8月16日～18日

石川県と懇談



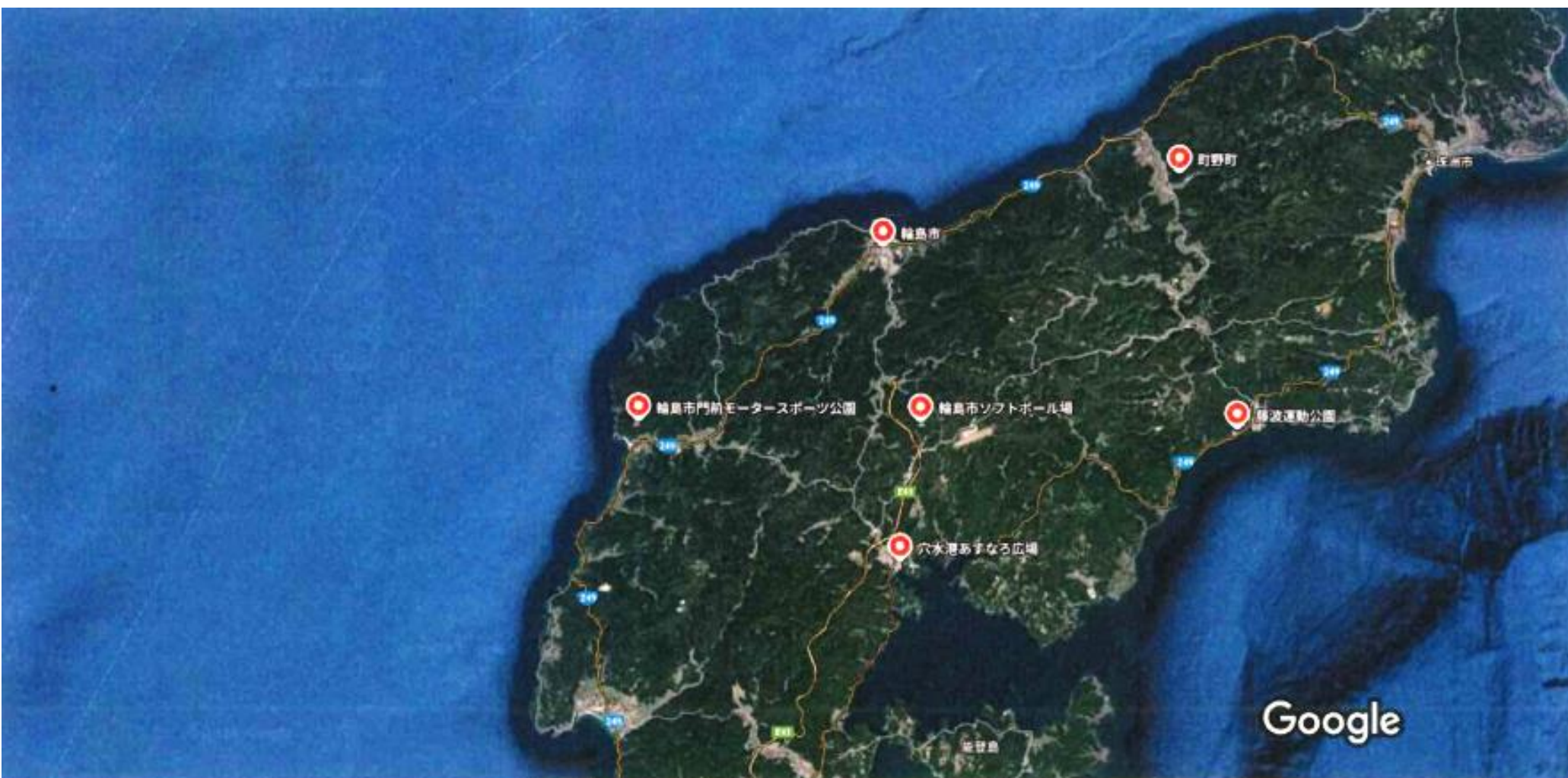
2024/08/16 10:57

輪島市朝市通りの様子 焼け残った建物は点在していた。



レベル3建材のサンプル採取





ソフトボール会場 輪島市第1仮置き場



建材（スレート）は、袋詰めでまとめられていた。



能登町藤波台運動公園がれき仮置き場 「壁材（石綿含有）」のコーナーの労働者（マスクをしていない）



- 第3次調査 12月14日～16日

志賀町町議堂下さんと意見交換



七尾市中島公民館訪問
ボランティア用防じんマスクの寄贈
被災地NGO協働センター能登支援担当 増島智子さんから、
現地の様子をお聞きする。



- 増島さんによる、現地ボランティア活動の報告の一部
- 注意喚起事項に、アスベスト建材の扱いを指摘

アスベスト問題



輪島市にてアスベスト含有の瓦を使った家屋の解体





- ・半年経っても風景が変わっていない。
- ・まだ、公費解体の申請ができてない。
- ・高齢で、再建しても何年生きられるか
- ・先の見通しがたたない。

市町別の公費解体の状況 (令和6年11月11日時点)



▶ 解体見込棟数32,410棟の **26.2%**にあたる **8,504棟**の解体が完了

資源循環推進課 076(225)1471

市町	解体見込棟数※ (R6.8) A	申請棟数※	着手棟数※	完了棟数 B	公費解体	緊急解体	自費解体	解体率 B÷A
珠洲市	7,195	6,829	4,454	2,612	2,490	109	13	36.3%
輪島市	9,685	9,860	5,975	1,679	1,437	222	20	17.3%
能登町	2,759	2,917	1,851	807	780	2	25	29.2%
穴水町	2,451	2,514	1,532	936	925	0	11	38.2%
七尾市	3,500	4,013	2,641	787	569	0	218	22.5%
志賀町	4,012	3,688	2,475	869	670	9	190	21.7%
その他	2,808	2,562	1,518	814	560	4	250	29.0%
合 計	32,410	32,383	20,446	8,504	7,431	346	727	26.2%

解体完了は、家屋等の解体が終了したものを示す。

ただし、珠洲市、能登町及び七尾市は、解体完了後の所有者との立会を終えた棟数を示す。

※ 緊急解体・自費解体を含む

アスベスト問題 ～阪神淡路大震災から30年～

日 月 曜日 第45384号 (神戸新聞社 2024年 7月22日 第1版)



阪神・淡路大震災で被災後、建物が解体されるビル。崩れ込んだ土が、1995年2月、神戸市兵庫区

阪神・淡路 被災地

震災石綿禍 発症本格化か

1995年1月の阪神・淡路大震災の後、瓦礫撤去などの業務に携わった阪神間在住の男性(67)が、当時吸ったアスベスト(石綿)が原因で悪性胸膜中皮腫を発症したとして、神戸西労働基準監督署が労災認定していたことが21日、分かった。

神戸市兵庫区に在住する67歳の男性は、1995年1月の阪神・淡路大震災の後、瓦礫撤去などの業務に携わった。当時吸ったアスベスト(石綿)が原因で悪性胸膜中皮腫を発症したとして、神戸西労働基準監督署が労災認定していたことが21日、分かった。

阪神間の男性、労災認定6人目

潜伏30年超 被害拡大の恐れ

潜伏30年超 被害拡大の恐れ

1995年1月の阪神・淡路大震災の直後、瓦礫撤去などの業務に携わった阪神間在住の男性（67）が、当時吸ったアスベスト（石綿）が原因で悪性胸膜中皮腫を発症したとして、神戸西労働基準監督署が労災認定していたことが21日、分かった。

中皮腫の発症には石綿を吸い込んでから平均30年～40年かかるとされ、被災地でこれから発症が本格化する恐れがある。

神戸市兵庫区に在住する67歳の男性は、1995年1月の阪神・淡路大震災の後、瓦礫撤去などの業務に携わった。当時吸ったアスベスト(石綿)が原因で悪性胸膜中皮腫を発症したとして、神戸西労働基準監督署が労災認定していたことが21日、分かった。

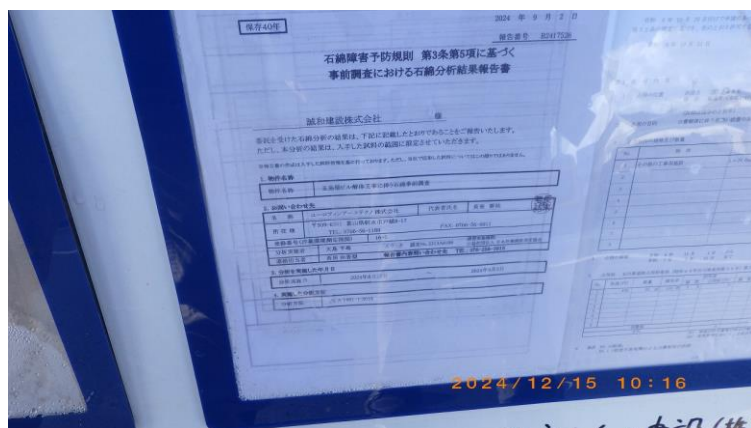
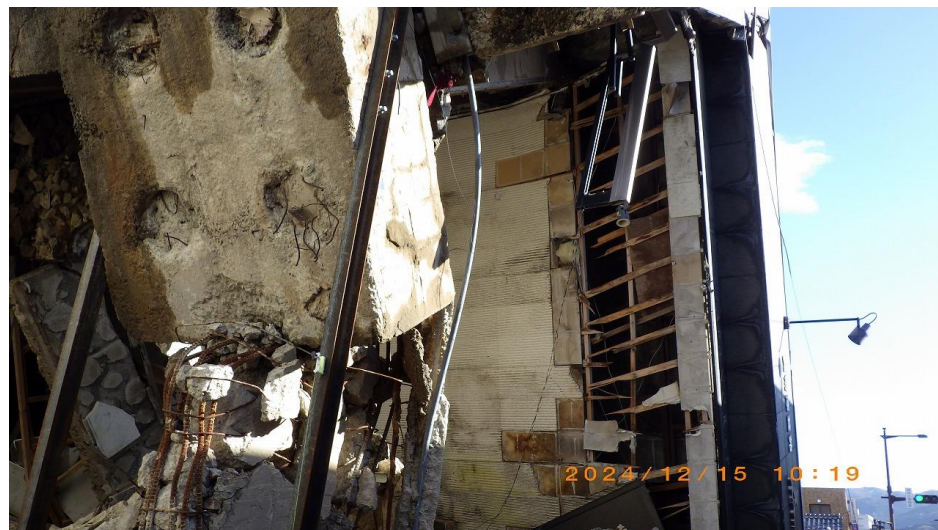
豪雨災害後の輪島市朝市通りの様子



1棟だけ残った元銀行の建物
壁材の押出成形板はアスベスト含有とみなし集積されていた

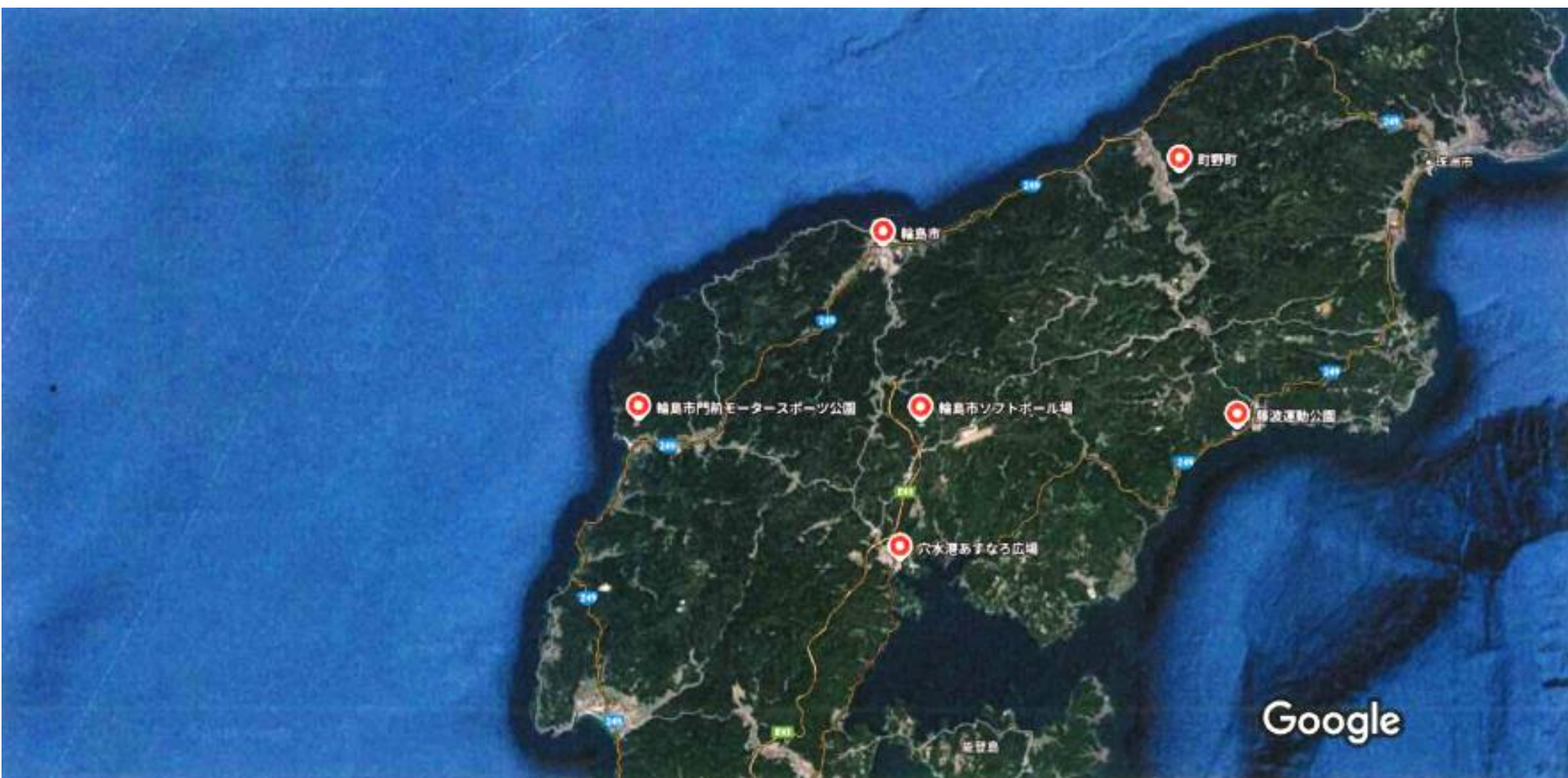


7階建てビルの解体は、6、7階が先行して撤去され5階から下がこれから撤去される
アスベスト調査結果は掲示されていたが、表紙のみで、結果票の中身は見られなかった



現避難所「旧河原田小学校」の吹付材





輪島市 第3仮置き場 町野高校跡地



旧石川サンケン町野工場 水害がれき置き場





地震により橋は隆起し、
その後の豪雨災害で、
川の両岸の建物は倒壊
している。

輪島市町野町



鈴屋川沿いの倒壊したままの家屋外山からの流木



11月26日 産業廃棄物中間処理施設「門前リサイクルセンター」(第2仮置き場)の稼働開始



壁材・スレートはまとめられ、
みなし建材で集積されていた



12月16日（月）、行政訪問、懇談。

- 輪島市市民生活部環境対策課兼公費解体推進室
 - ・ 朝市通り・アスベスト含有吹付け：3件、レベル3：4件
 - ・ 公費解体（13日現在）申請10354棟
- 穴水労基署署長
 - ・ 県との公費解体工程会議定期的に開催
 - ・ 重大労災など発生している
 - ・ レベル1届け出10件ほど出ている
- 石川県生活環境部資源循環推進課
 - ・ 週1回程度の工程会議で労働局、市との調整
 - ・ 5月28日にアスベスト研修会を実施、市・町の職員、公費解体業者が参加（63名）

2025年1月12日 震災シンポ

阪神・淡路大震災から30年 災害とアスベストを考えるシンポジウム



1995.1.17 阪神・淡路大震災／神戸市東灘区



2011.3.11 東日本大震災／陸前高田市



2016.4.14 熊本地震／益城町



2024.1.1 能登半島地震／輪島市朝市通り

2025年1月12日(日)13:00～16:30

三宮研修センター7階

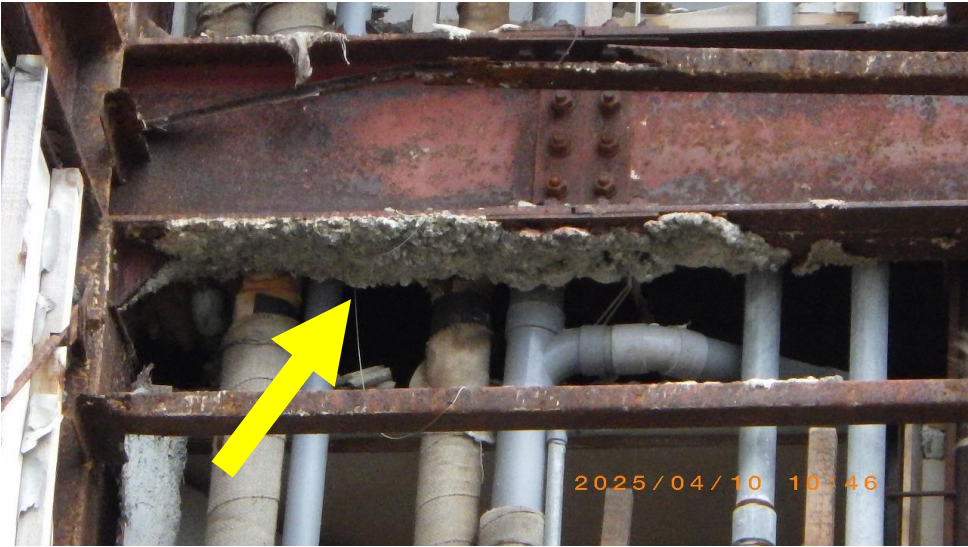
主催：災害とアスベストー阪神淡路30年プロジェクト

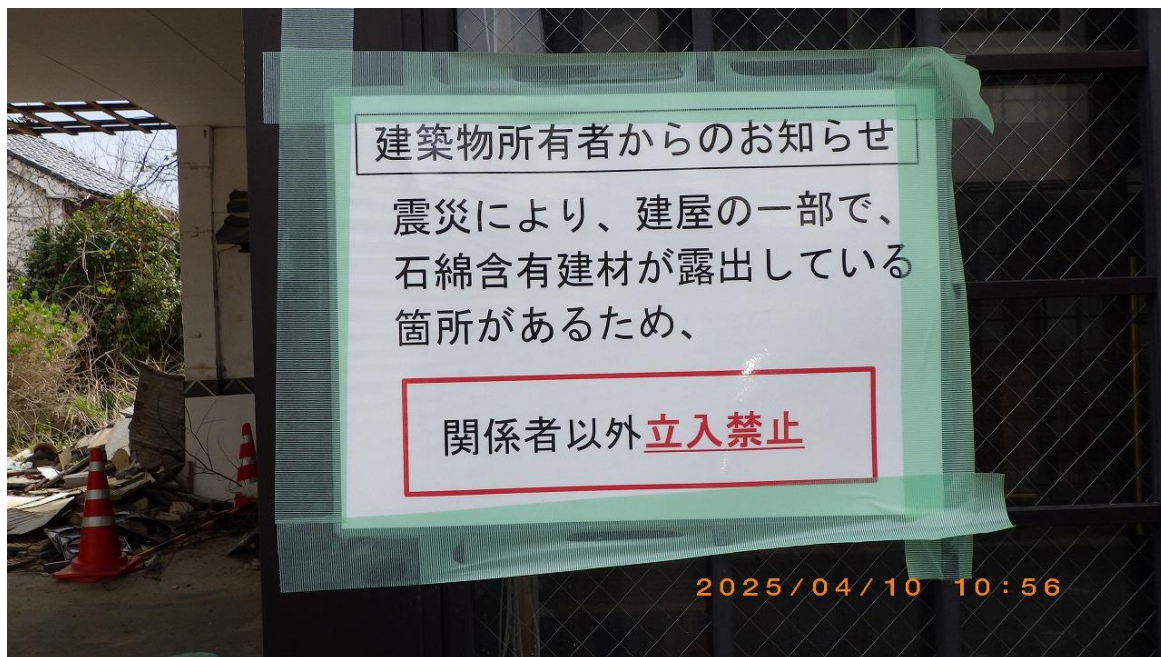
2025年4月10日

七尾市









珠洲市







青石綿のかたまりが
地面に落下している。







被災地の速やかで安全な復興と、
平穏な暮らしがいち早く戻ってくることを
願います。